

下北地区統合校開設準備委員会報告書 (案)

令和 年 月 日

下北地区統合校開設準備委員会

1 下北地区統合校開設準備委員会の設置趣旨及び協議

下北地区統合校開設準備委員会（以下「開設準備委員会」という。）は、令和3年11月に策定した青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画に基づき、令和9年度に県立大湊高等学校及び県立むつ工業高等学校（以下「両校」という。）の統合による下北地区統合校（以下「統合校」という。）の開設に必要な準備を進めるため設置されたものです。

以下は、開設準備委員会で協議を行った内容ですので、県教育委員会におかれては、今後この報告書を踏まえ、下北地区統合校の開設に向けた検討を行っていただくことを望みます。

2 開設準備委員会における協議事項及び協議結果

（1）校名案

「下北総合高等学校」、「むつ大湊高等学校」、「むつ大湊総合工科高等学校」、「むつ総合高等学校」、「むつみらい高等学校」の5案を本委員会の校名案とする。

① しもきたそうごう 下北総合高等学校

提案理由

- 「大湊」と「むつ」の名を残すのではなく、短く分かりやすく「下北」とした。
総合学科と工業科が一緒になることから「総合」という表現が良いのではないか。
- 下北にある唯一の普通、商業、工業の専門学科のある総合高等学校であり、その中で自分の夢や可能性を信じ、進路選択を考えていく。また、下北にある企業や地域とつながり連携していく高等学校であると考えている。

（統合校の校名案にふさわしいと考える委員の理由）

- 下北地区の総合高等学校であると明快に理解できる名称である。
- 大湊高校の特徴の総合学科と工業高校の統合の新しい学校名としてふさわしいと思う。
- 普通、商業、工業の他に探究の授業への取組も含め総合という表現が良い。
- 「むつ」に限定するだけでなく、「下北」と広げることで地域の高校と位置づける意味でも良い。
- シンプルで分かりやすい。
- 今後の情勢の変化にも対応できそうで良いと思う。
- 学科の枠を越えて教育活動を進めたり、地域と連携し地域産業に貢献していく下北にある新しい総合高等学校であるということから。

② おおみなと むつ大湊高等学校

提案理由

○ 同窓会役員会で出た案であり、両校の校名を残した形としている。

○ 「技術と総合力の融合」

「むつ」と「大湊」という2つの地名は、地域住民にとって非常に馴染み深いもので、学校名にこれらをそのまま残すことで、「我が町の学校」「地域のシンボル」としての存在感を維持できると思う。

また、地元企業や行政、地域住民との信頼関係の継続にもプラスになり、特に、進学・就職の場面でも「地元で根付いた学校」として認識されやすくなると思う。

両校の名前を尊重する形で残すため、卒業生や関係者にとっても心理的な抵抗が少なく統合に伴う変化の中でも、「昔の面影がある」「自分の出身校が受け継がれている」という連続性を強く感じ取ることができると思う。

○ 全国的に「むつ」「大湊」は知名度がある。また、両校の生徒や関係者にとって母校がなくなるのは寂しいなどという思いがあると考えられるため。

○ 自分が大湊高校の卒業生であり旧職員でもあるので、多くの大湊高校関係者から大湊高校の今後について話を聞いたが、卒業生・旧職員のほとんどが校名に「おおみなと」を残してもらいたいと言っている。

むつ工業高校の卒業生・旧職員も同様と考えられる。

この2つの理由からどちらか一方の名を残すことは、残らなかった名称の関係者から相当の抵抗があると考えられる。

この2つの高校の名をつけるに、「むつ」を先にした方が言葉の座りが良い。

全く新たな名をつけたとしても、10年、15年先の地域の生徒数を考えると、更なる統廃合の動きが予想され、再度の校名変更もあり得ることから、今回は、これまでの2つの学校の歴史を重んじて「むつ」と「大湊」の両方を残すべきだと思う。

○ 地名は入れた方が良く、分かりやすい校名が良いと思う。

(統合校の校名案にふさわしいと考える委員の理由)

○ 「むつ工業」「大湊」両校の名前を残し、それぞれの学校の歴史、伝統を継承する学校であることを示したい。

○ 同窓会役員会の案。両校の校名を残した形としている。

○ 「大湊」を残したいという声が多いから。

○ むつ市という広域自治体と大湊という地域の歴史・地理的な要素を融合させた名称であり、地域に根ざした教育機関としての役割を象徴している。

両校の名前を尊重する形で残すため、卒業生や関係者にとっても心理的な抵抗が少なく統合に伴う変化の中でも、「昔の面影がある」「自分の出身校が受け継がれている」という連続性を強く感じ取ることができると思う。

○ 「むつ」と「大湊」という2つの地名は、地域住民にとって非常に馴染み深いもので、校名にこれらを残すことで「我が町の学校」として存在感を維持できると思う。

- この先、むつ市に1つの高校となる可能性が高いので、その時に新たな校名を再考、検討すれば良い。今は、二つの学校の名を残したいという人が多いので、むつ市のむつを先に、むつ市の一部の大湊を後にした順で二つの校名を残す案がいいと思う。
- 「むつ」と「大湊」の名を残したいという地域の声を反映。
- 同窓会役員会で出た案であること、シンプルで分かりやすい点がふさわしいと思った。
- 両校の名前を尊重する形で残すのであれば、「むつ」「大湊」の名前を入れる。
- 両校の校名が一番分かりやすく残っている。

③ おおみなとそうごうこうか むつ大湊総合工科高等学校

提案理由

- むつ工業高校の「むつ」と大湊高校の「大湊」を組み合わせ、両校名を残したい。多彩な学びを実現する学校ということで「総合」を付した。
さらに工業高校の継承校であることを示すために「工科」を添えた。

(統合校の校名案にふさわしいと考える委員の理由)

- 「むつ工業」「大湊」両校の名前を残し、それぞれの学校の歴史、伝統を継承する学校であることを示したい。また、総合学科と工業科を擁する学校であることが示せる。
- グローバル化やDX化の進展に伴う産業界のニーズの変化を踏まえ、統合により工業教育の内容も進化することから、先進的で魅力ある教育活動から得る実践的な「技術・知識」など、新たな時代を切り拓く学校としてふさわしい名称。
- 多彩な学び、両校の名称が残る。
- 両校の名が残り、総合工科として両校の特色をイメージできる。
- 総合学科と工業系学科の両方を持つ教育内容を明示し分かりやすい校名。文系・理系・工業系の多様な学びが可能な学校であること。
- どちらの学校のそれぞれの技術を総合工科と名付けているのが良い。
- 工業学科・総合学科があることが分かりやすい。

④ そうごう むつ総合高等学校

提案理由

- 高等学校の名には、地名を入れるべきと考え「むつ」とした。
大湊高校とむつ工業高校の統合ということより、「総合」という名をつけることがふさわしいと思った。

(統合校の校名案にふさわしいと考える委員の理由)

- “総合”にすべてのこどもたちの可能性を拓くとの思いを込めたい。

- 短く、シンプル、覚えやすい。
- 大湊高校とむつ工業高校の統合ということで、「総合」という言葉がふさわしいと考えた。
また、むつ・大湊とくくるより、シンプルで分かりやすい。
- シンプルで分かりやすい。
- 今後の情勢の変化にも対応できて良いと思う。
- 場所が「むつ」にある総合高等学校なので。

⑤ むつみらい高等学校

提案理由

- 地域とともに歩み、生徒が未来に向かって力強く羽ばたくための力を育む学校になることを願い、全国初のひらがなの市の精神を受け継ぐ形で「むつみらい高等学校」としたい。「むつ」を冠することで、むつ市という地域に根差していることを明確に示し、生徒と住民の愛着や誇りを育むことにつながる。また、「みらい」には総合学科と工業科の特性を生かした「未来を切り拓く力を育む教育拠点」になることへの希望が込められている。なお、「大湊」の名は残らないが、大湊高校川内校舎と同様、大湊高校の歴史、伝統等は統合校に引き継がれるものとする。

(2) 目指す人材像・学校像

下北地区統合校教育内容等情報交換会における意見を踏まえ、県教育委員会及び開設準備室で検討を進めてもらいたい。

(3) 総合学科の系列

本委員会における意見を踏まえ、開設準備室で検討を進めてもらいたい。

(主な意見)

- 現在の大湊高校の4つの系列は、生徒のニーズと地域の特性を考慮し、平成14年に設置されたものであり、それ以来、熟成を重ね現在に至っている。よって、この4系列を統合校に引き継いでいくことができたら良いと思う。
- 昨年度、大湊高校は「キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰」を受賞していることから、ぜひこの系列を統合校でも継承してほしい。

(4) 特色ある教育活動

下北地区統合校教育内容等情報交換会での意見、下北地区統合校検討委員会からの要望、学校関係団体、産業関係団体との情報交換等における意見及び統合対象校からの提案を基本としつつ、本委員会における意見を踏まえ、開設準備室で検討を進めてもらいたい。

(引き継ぎたい教育活動に係る統合対象校からの提案)

[大湊高校]

- 「下北BOUSAIネットワーク」を統合校でも継続したい。また、大湊高校で実施している、様々な生徒のニーズに合わせた学習やオプション（選択肢）を組み込んでいくUDL（学びのユニバーサルデザイン）の研究や長く実施してきているねぶた運行を継続できれば良い。

(主な意見)

- 下北BOUSAIネットワークでは、複数の学校が共同で本当に素晴らしい実践を行っている。また、むつ工業高校においても、民間団体等との共同研究や生徒の自主研究の発表を公開している。両校の素晴らしい活動をぜひ継続してほしい。
- 例えば、工業科の生徒が大学進学で数学Ⅲが必要となった場合、工業科にその科目がなくても、総合学科に開設している数学Ⅲを履修できるというように、大学科を越えた履修についても可能となるよう検討してほしい。
- 統合校においても、例えば、機械科では、機械加工、ロボット制御の類型、電気・エネルギー科では、電気、エネルギーの類型を設定するなど、生徒の進路志望に合わせて選択できる学習形態を作ることができれば良いと考えている。また、特色ある教育活動として、様々な資格取得に関する意見等を多くいただくが、学習指導要領においては、直接的に資格取得が目的となっているものはない。一部の科目においては、探究的な活動を取り入れたり、教科内でバランスを取ったりしながら資格取得を目指すものもあるが、一概に科目イコール資格取得ではないということを踏まえながら教育活動を考える必要がある。

(5) 総合学科と工業科の連携

下北地区統合校教育内容等情報交換会での意見を基本としつつ、本委員会における意見を踏まえ、開設準備室で検討を進めてもらいたい。また、教育課程の編成などに向けてワーキンググループを設置し、検討を進めてもらいたい。

(主な意見)

- 総合学科の健康福祉系列の生徒と工業科の生徒が共同で、医療機器の設計や改良を行うプロジェクトなどを実施できたら良い。また、総合学科と工業科を越えた自由選択科目を設定し、相互に履修することができれば良い。特に、両校ではSTEAM教育、アントレプレナーシップ教育をそれぞれの立場から行っていることから、良い形で融合させることができれば、波及効果があるのではないかと。
- 統合校の教育活動は、アントレプレナーシップと教科横断的な学習がメインだと思っている。また、大学科を越えての自由な選択履修ができれば良い。統合校では、下北版のSTEAM教育を行うことができれば、生徒たちにとって素晴らしいことだと考える。これらの取組によって、総合的な探究の時間や課題研究を充実させ、キャリア教育につなげていくことができれば、充実した教育課程の実現が図られるのではないかと考える。

(6) 特色ある教育活動や総合学科と工業科の連携を踏まえた施設整備

特色ある教育活動や総合学科と工業科の連携が効果的なものになるよう、本委員会における意見を踏まえ、開設準備室で検討を進めてもらいたい。

(主な意見)

- 基礎・基本を確実に身に付けられるような設備、先端の工業技術に触れることができる設備が必要である。また、地域の産業関係者が製品開発や実験をすることができる機能を統合校に持たせることができれば、魅力ある学校になるのではないかな。
- 県内で統合校にしかない設備があれば良い。各県立高校の設備を相互利用することができれば、県立高校の強みとして公立離れを防ぐことができる。

(7) 制服

両校の教職員等によるワーキンググループによって、新たな制服を制定する方向で、業者の選定、デザイン等の検討を進め、デザインの検討など当たっては、可能な限りこどもたちの意見を取り入れるように工夫してもらいたい。

(主な意見)

- こどもや地域など様々な方の声を聞きながら新たに制服を制定してほしい。
- 他地区の生徒にも入学してもらえるような、着てみたいと思えるような新たな制服を作してほしい。
- 保護者の意見も重視してほしい。
- 制服の価格も大事な論点だと思う。
- 女子生徒のスラックスも選択肢としてあった方が良い。
- ワーキンググループの中で話をして両校の伝統を尊重していければ良いと思う。

(8) 校訓・校章・校歌

校訓・校章・校歌を新たに制定する方向を基本とし、制定方法については、本委員会における意見を踏まえ、開設準備室で検討を進めてもらいたい。

(主な意見)

- スクール・ミッション、スクール・ポリシー等と整合性を図る必要がある。
- むつ市にゆかりのある作曲家に会った際、校歌のことを話題にしたところ、「地域のために協力できることがあるかもしれない」と話していたので参考としていただきたい。
- こどもたちから校歌に入れてほしい言葉を募集し、その言葉とともに地元や青森県を代表する方に依頼することもあると考えられる。
- 校訓や校章を在校生に考えてもらうのはどうか。

- 校訓は両校の生徒会で考えてもらい、校章のデザインを生徒に募集することは考えられる。生徒に募集するのであれば、統合校のイメージをきちんと理解してもらう必要がある。

(9) 部活動

統合対象校における全ての部活動を引き継ぎつつ、新たな部活動の設置を含め、開設準備室で検討を進めてもらいたい。

(主な意見)

- こどもたちの選択肢を広げるためにも、統合対象校における部活動を全て引き継いでもらいたい。また、新たな部活動の設置も検討してほしい。
- こどもや保護者等が統合校に期待するものとして部活動も含まれると思う。こどもたちのために選択肢がたくさんあった方が良いのではないか。
- むつ市では、今年度から中学校の部活動がむつ☆かつに移行し、部活動の選択肢が増えたが、中学生の半分程度が加入していないという実態がある。統合対象校での部活動を統合校でも設置してほしいが、入部しない生徒の方が多くなるのではないか。多くの部活動を設置するとしても、愛好会としての活動や休部になることも想定される。
- 部活動の活動場所についても生徒に不都合が生じないように配慮してほしい。

(10) 統合対象校間の連携

※第4回開設準備委員会の協議結果を踏まえて記載

(主な意見)

○

(11) 記念物品の展示

※第4回開設準備委員会の協議結果を踏まえて記載

(主な意見)

○

(12) 事務の引継ぎ

※第4回開設準備委員会の協議結果を踏まえて記載

(主な意見)

○

附 属 資 料

- 1 下北地区統合校開設準備委員会設置要綱
- 2 下北地区統合校開設準備委員会委員及びオブザーバー名簿
- 3 下北地区統合校開設準備委員会の協議経過
- 4 下北地区統合校の校名案候補に対する意見募集の結果
- 5 下北地区統合校教育内容等情報交換会における意見のまとめ
- 6 要望書（下北地区統合校検討委員会）
- 7 学校関係団体、産業関係団体等との情報交換等における意見

1 下北地区統合校開設準備委員会設置要綱

(設置)

第1 青森県立大湊高等学校及び青森県立むつ工業高等学校（以下「両校」と総称する。）の統合による下北地区統合校（以下「統合校」という。）の開設に必要な準備を進めるため、下北地区統合校開設準備委員会（以下「開設準備委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2 開設準備委員会は、次に掲げる事項について協議、検討し、青森県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）に報告する。

(1) 統合校の名称、目指す人材像及び特色ある教育活動に関すること。

(2) その他統合校の開設準備に関すること。

(組織)

第3 開設準備委員会は、委員及びオブザーバーで組織する。

2 委員は、別記1に掲げる者のうちから教育長が委嘱又は任命する。

3 オブザーバーは、別記2に掲げる者をもって構成する。

4 オブザーバーは、開設準備委員会の会議に出席し、委員の求めに応じて情報提供するものとする。

5 第5第1項に規定する委員長は、開設準備委員会の会議に必要な資料作成等を行うため、必要に応じて、両校の教職員で組織する作業部会を設置することができる。

(任期)

第4 委員の任期は、委嘱又は任命した日から令和8年3月31日までとする。

(委員長等)

第5 開設準備委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選により定める。

3 委員長は、開設準備委員会を主宰する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代行する。

(会議)

第6 開設準備委員会の会議は、委員長が招集する。

(庶務)

第7 開設準備委員会の庶務は、青森県教育庁高等学校教育改革推進室及び両校において処理する。

(その他)

第8 この要綱に定めるもののほか、開設準備委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、令和7年4月11日から施行する。
- 2 この要綱の施行後最初に開催される開設準備委員会の会議は、第6の規定にかかわらず、教育長が招集する。

別記1

開設準備委員会委員

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1 両校の校長の職にある者2 両校のPTA、同窓会、後援会等のうち各校の校長が推薦した者3 むつ市教育委員会教育長の職にある者4 地域の学校教育関係者として学識経験を有する者であって、教育長が特に必要と認める者5 むつ市の産業界関係者のうち同市に所在する経済団体の長が推薦した者6 下北地方中学校長会のうち同会の長が推薦した者7 青森県PTA連合会のうち同会の長が推薦した者 |
|---|

別記2

開設準備委員会オブザーバー

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1 両校の教頭及び事務長の職にある者2 両校の教職員のうち各校の校長が特に必要と認める者 |
|---|

2 下北地区統合校開設準備委員会委員及びオブザーバー名簿

(敬称略)

	氏 名	所 属 等
委 員	伊藤 文一	青森県立大湊高等学校 校長 〔副委員長〕
	野呂 政幸	青森県立むつ工業高等学校 校長 〔副委員長〕
	平内 真一郎	青森県立大湊高等学校 P T A 会長
	又村 彰	青森県立大湊高等学校同窓会 会長
	佐々木 一浩	青森県立大湊高等学校後援会 理事長
	山川 隼	青森県立むつ工業高等学校 P T A 会長
	木村 努	青森県立むつ工業高等学校同窓会 会長
	吉田 成人	青森県立むつ工業高等学校後援会 理事長
	阿部 謙一	むつ市教育委員会 教育長
	山本 隆悦	(地域の学校教育関係者) 元県立野辺地高等学校 校長 〔委員長〕
	高屋 龍一	むつ商工会議所 監事
	濱中 亮輔	むつ市川内町商工会 理事
	畑中 祐美子	大畑町商工会 副会長
	成田 真紀	(下北地方中学校長会) むつ市立近川中学校 校長
	高松 笑子	(青森県 P T A 連合会) むつ市立田名部中学校 P T A 会員
オ ブ ザ ー バ ー	畑中 俊光	青森県立大湊高等学校 教頭
	山田 一二美	青森県立大湊高等学校 事務長
	軽部 和佳子	青森県立大湊高等学校 教務主任
	坂下 哲也	青森県立むつ工業高等学校 教頭
	麥澤 美穂	青森県立むつ工業高等学校 事務長
	加藤 始	青森県立むつ工業高等学校 教務主任
	坪 大輔	青森県立むつ工業高等学校 設備・エネルギー科主任

3 下北地区統合校開設準備委員会の協議経過

回	年 月 日	内 容
1	令和7年5月19日	○統合校の目指す人財像・学校像について ○校名案の決定方法について ○制服の方向性について
2	令和7年7月17日	○校名案の方向性について ○総合学科の系列の方向性について ○特色ある教育活動の方向性について ○総合学科と工業科の連携の方向性について
3	令和7年10月27日	○校名案の方向性について ○校訓・校章・校歌の方向性について ○部活動の方向性について ○特色ある教育活動や総合学科と工業科の連携を踏まえた施設整備の方向性について
4	令和7年12月19日	○統合対象校間の連携の方向性について ○記念物品の展示の方向性について ○事務の引継ぎの方向性について ○下北地区統合校開設準備委員会報告書（案）について

4 下北地区統合校の校名案候補に対する意見募集の結果

○意見募集期間

令和7年8月1日（金）から令和7年9月8日（月）まで（39日間）

○意見提出人数及び件数

意見提出者 195人

校名案候補に対する意見 211件

その他特筆すべき意見 12件

下北地区統合校教育内容等情報交換会における意見のまとめ

令和7年3月13日

1 下北地区統合校教育内容等情報交換会の開催趣旨について

下北地区統合校教育内容等情報交換会（以下「情報交換会」とする。）は、青森県立大湊高等学校及び青森県立むつ工業高等学校（以下「関係校」とする。）の統合による下北地区統合校の開設に当たり、令和7年度に設置する開設準備委員会における検討を更に充実させるため、開催されたものです。

以下は、情報交換会で出された意見をまとめたものですので、開設準備委員会では、これらの意見も踏まえて、協議していただくことを望みます。

2 これまでに出された意見について

（１）目指す人財像・学校像

〈目指す人財像〉

- 社会の発展を担う幅広い視野を持ち、課題発見・解決に向けて、主体的・協働的に取り組む人財。
- グローバル社会で通用する視点や能力を有し、国内外に情報発信する能力を備えた人財。
- 多様性を尊重する心やふるさとを愛する心を備え、地域で活躍できる人財。
- 工業分野における専門知識・技術、倫理感を身に付け、新たな価値を創造し、より良い地域を実現しようとする人財。
- 新しい時代を生き抜く起業家精神などの資質・能力を備えた人財。

〈目指す学校像〉

- 地域課題等の解決に向けた実践的な取組により、郷土を愛する心、主体的に課題を発見・解決する力、地域に価値を見出し地域ブランドを確立する力などを育成する学校。
- 産学官協働による実践的な学びにより、工業分野における専門知識・技術、倫理感や、未知の領域へ果敢に挑戦し、新たな価値を見出す力を育成する学校。
- 学科・系列の横断的な学びの充実により、多様性を尊重する心、コミュニケーション能力、マーケティングに関する知識、情報収集及び処理能力を育成する学校。
- アントレプレナーシップ教育の充実により、起業家精神などの資質・能力を育成する学校。
- キャリア教育の充実により、小学校・中学校・高校の継続的なキャリア教育の拠点となる学校。
- 関係校の強みを組み合わせた学校。
- 自身の資質向上を図りながら、協力し合い、物事を成し遂げられる力を身に付けることができる学校。
- ICTの活用等により、地域性を超えた学びを実現する学校。

(2) 特色ある教育活動

〈引継ぎが考えられる教育活動〉

- 地域のことを学び、地域と交流する教育活動。
- 大湊高校で取り組んでいる探究活動や「外まなび部」などの教育活動。
- 地域や企業、研究機関との連携による共同開発など、地域に貢献する教育活動。
- 成果発表会の開催など、地元の中学校に高校を知ってもらう教育活動。
- 第三種電気主任技術者認定校の要件を満たした教育課程。

〈新たに考えられる教育活動〉

- 実践型のインターンシップの拡大や、地域の小・中学校と高校による系統的なキャリア教育の推進、関係校それぞれのキャリア教育の強みの融合などにより、生徒の多様な進路へ対応する教育活動や進路指導の充実。
- 総合学科と工業科の併置によるメリットを生かし、補習等で工業簿記を行うなど、職業資格の取得につながる教育活動。

(3) 総合学科と工業科の連携

- 総合学科と工業科の併置によるメリットを生かした学科・系列等の横断的な学びにより探究学習の充実と深化を図る。
- 学科・系列の専門性や系統的な教育活動を基本としつつ、以下のような教科・科目の履修選択の枠組みを検討することも考えられる。
 - (自然科学系列と工業科の連携)
 - ・ 製品の共同開発、試作、データ分析のものづくりの一連形態を学習。
 - ・ 自然科学系列の生徒が、工業科の設備を活用することで、高いレベルの研究等による進路選択の幅の広がり。
 - (健康福祉系列と工業科の連携)
 - ・ ユニバーサルデザインや地域の医療福祉分野に関する調査・研究から、ものづくりへつなげることによる教育活動の充実。
 - ・ 健康福祉系列の生徒が介護実習等において、介護備品の不便と思う点に対し、工業科の技術を取り入れ、その不便さの解消。
 - (情報ビジネス系列と工業科の連携)
 - ・ 情報コースにおいて、資格指導や、情報技術分野の知識・技術の高度化によるビッグデータの解析・活用方法などの学習の充実。
 - ・ 多面的な地域課題の発見・解決に向けて、工業科がつくり上げた製品を活用して、地域ブランディング力やマーケティング力を育成する取組。
 - ・ 高性能な設備の使用や、専門性を有した教員の指導による、分野横断的な学びの受講。
- 生徒が興味・関心や進路志望に応じて、主体的に取り組めるよう、専門の教科・科目だけでなく、課題研究等での連携・実践を通して、思考力や探究力などの力を育むとともに、知識や技術を習得し、地域を支える人財育成にもつなげる。

要 望 書

下北地区統合校検討委員会

令和6年11月27日

青森県教育委員会

教育長 風 張 知 子 様

む つ 市 長

山 本 知 也

下北地区統合校検討委員会 座長 高 橋 興

要 望 書

青森県教育委員会教育長始め教育委員の皆様におかれましては、本県教育振興に日頃より御尽力されておりますことに、心から敬意と感謝を申し上げます。

私たちは、青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画における下北地区統合校に関しまして、むつ市に事務局を置く「下北地区統合校検討委員会」を令和5年度に設置し、これまでに会議を6回開催してきました。

「教育内容や校舎のあり方等について下北地域の意見を届ける」ことを目的とし、学識経験者、学校教育関係者、PTA関係者及び産業界関係者で構成される委員が、それぞれの知見をもとに、活発な議論を重ねてまいりました。さらに、オブザーバーとして、下北地区及び横浜町の教育長にも御出席いただき、貴重な御意見をいただいております。

私たちは、地域の未来を担う生徒たちが下北地区統合校において、地域の特色を生かした最良の教育環境で成長できることを希望しております。

つきましては、下北地区統合校の設置に当たり、その教育内容や校舎のあり方等、開校に向けて必要な下記の事項について検討し、実現されますよう強く要望します。

また、当該検討委員会において、委員から要望結果について確認する必要があるとの御意見もいただいておりますことから、本要望書に対する御回答をいただきたいと存じますので、御対応のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、いただいた御回答につきましては、次回の検討委員会で委員の皆様へ御報告させていただきます。

記

要望項目 1. 生徒たちが望み、地域が必要とする学科とし、多様な教育環境・カリキュラムを整備すること

【要望事項】

- (1) 地域特性を生かした科目及び今後求められる人材育成に必要な科目を設定すること。
 - ①海洋科学、環境科学、原子力・自然エネルギー、ICT等の研究者や技術者の育成に寄与する科目
 - ②看護師、介護士、保育士等、地域が必要とする職種につながる科目
- (2) 資格取得に有効な現行の科目を維持・継続すること。
- (3) 資格取得に有効となる新たな科目を創設すること。
- (4) 第三種電気主任技術者認定校の機能を継続すること。
- (5) 学校権限で地域と相談なく変わることのないよう、青森県教育委員会として、科目を保障すること。
- (6) 特色ある教科を教えることができる教員を配置すること。
- (7) 県内の他の拠点校と連携し、オンラインでの履修を可能とすること。
- (8) オンライン授業に対応できる環境を整備し、世界中の学校と交流できるグローバルな教育を実現すること。
- (9) 多様な生徒がものづくりを通じて、実社会で通用する技能を育成しながら資格取得を目指すことが可能となる、工業高校の良さを最大限に生かした定時制課程を併設すること。

要望項目 2. 生徒たちが行きたいと思える新校舎にすること

【要望事項】

- (1) 生徒が愛着と誇りを持ち、また、地域に親しまれる校舎とすること。
- (2) 地域の特色を生かした、魅力的で個性的な校舎とすること。
- (3) 地域の意見を取り入れた学校づくりを実現する校舎とすること。
- (4) 地域との連携等、様々な用途で利用できるオープンスペースを設置すること。
- (5) オンラインでの履修、さらに、企業や大学とのつながりが実現できるように盤石なネットワーク環境を整備すること。
- (6) 太陽光発電を取り入れる等、地球環境に配慮し、更に災害に強い学校にすること。
- (7) 食環境の充実及び健康増進のため、食堂や軽食を提供する場を設置すること。
- (8) 県立高等学校教育改革推進計画第3期実施計画（田名部高等学校、大間高等学校及び下北地区統合校の今後）を見据えた校舎のあり方を検討し、地域の理解を得ながら計画を進めること。

要望項目 3. 現校舎を利活用すること

【要望事項】

- (1) 大学の学部の誘致等、閉校した後の校舎やグラウンド、生徒会館等の財産の利活用について検討すること。

要望項目 4. 部活動・体育活動に支障のないグラウンドを整備すること

【要望事項】

- (1) 活動場所や設備等について、大湊高等学校、むつ工業高等学校及び下北地区統合校の教育活動が重複する令和9年度からの2年間において、3つの高校で差異が出ない取組を実施すること。
- (2) 現在活動している部活動をそのまま存続させ、そのために必要な環境を整えること。さらに、魅力ある部活動のあり方を具体的に検討し、生徒に多様な選択肢を与えること。
- (3) 下北地区統合校が開校してすぐに通年で使用できるように、各部活動の練習場所を確保すること。また、野球場とグラウンドは併置案とせず、現在の大湊高等学校又はむつ工業高等学校のグラウンドの積極的な活用を検討し、移動手段についても確保すること。
- (4) 活動場所が既存の設備で確保できなかった場合は、野球場やグラウンドの新設を検討すること。
- (5) グラウンド工事によって、本来の活動が制限されることのない工事スケジュールにすること。
- (6) 団体競技等は、大湊高等学校、むつ工業高等学校及び下北地区統合校との合同でのチームづくりにより、試合や大会の出場を可能とする等の配慮をすること。

要望項目 5. その他の課題への対策

【要望事項】

- (1) 下北や県内・県外から通う生徒のため、寮や下宿の整備を検討すること。
- (2) 大湊高等学校が閉校になることで、通学が困難になる等の影響を受ける生徒のために、スクールバスの運行又は通学費を支援すること。
- (3) 「青森県立高等学校魅力づくり検討会議」や「青森県教育改革有識者会議」、また、今後新設される、下北地区統合校に係る「開設準備委員会」における委員の意見を十分に反映させた学校づくりをし、地域の意見に耳を傾けること。
- (4) 下北地区統合校の開校に向けた進捗状況等について、情報を開示し、地域の理解を進めながら計画を遂行すること。
- (5) 野球場やグラウンドの整備に関して、むつ工業高等学校に隣接するむつ市所有の土地を有効活用できるか検証し、利活用に向けて前向きに検討すること。

学校関係団体、産業関係団体等との情報交換等でご意見とその対応について

1 教育内容、資格に関すること

No.	ご意見	対応
1	総合学科、工業科以外の新学科を設置しても良いのではないか。	地区意見交換会や地区懇談会、パブリック・コメント等において、いただいたご意見の一つ一つを参考としながら、教育委員会会議で慎重に検討を重ね、第2期実施計画における下北地区統合校の学科を「総合学科3学級、工業科2学級」と決定したものです。なお、統合校開設時における新しい学科の設置は想定しておりません。
2	統合校での学びや将来の進路等が不明確であるため、中学生が夢を持って受検したいと思うよう、教育方針や授業内容、特色ある活動等を明確にしてほしい。	下北地区統合校の学科及び学級数は総合学科3学級（現在の大湊高校の4系列を基本）、工業科2学級（機械科、電気・エネルギー科）と決定しており、教育内容は現在の大湊高校及びむつ工業高校のものを基本とし検討を進めることとしておりますが、具体的な教育課程の編成等については時代の変化に合わせたものとする必要があることから、統合校開設の2年前となる令和7年度に設置する開設準備委員会における検討内容等を踏まえ、令和8年度に設置する開設準備室において決めていきたいと考えております。
3	大湊高校とむつ工業高校の授業を引継ぐだけでは足りない。新しい学校では新しい教育をすべき。	【令和7年度開設準備委員会】
4	統合校開設に当たっては、新たな総合学科、工業科をつくるという気持ちで臨んでほしい。	統合校の新たな名称、目指す人財像、特色ある教育活動等について協議するとともに、統合の対象となる学校間における連携の在り方や各校のあゆみを伝えるための資料の展示等について情報共有します。
5	統合校の校歌や校訓等は、統合校に1年目に入学することとなる中学生から公募する等、オープンに検討してほしい。	【令和8年度開設準備室】
6	学科が決まっているとしても、コンピュータや原子力等を学べるコースの設置等を検討すべき。	開設準備委員会における協議結果を踏まえ、統合校の教育課程の編成、制服デザイン委託、校歌・校章作成、校則・校務分掌・学校要覧など校内諸規程の整備等、開校に向けた具体的な準備を進めます。

No.	ご意見	対応
7	開設準備委員会を設置し、統合校の教育内容等について協議する令和7年度には、統合校を受検する子はすでに中学2年生である。教育内容等の検討時期があまりに遅いと懸念している。	N O 2~6参照
8	令和7年度の開設準備委員会における協議の際、学校づくりや教育内容、校舎の在り方について議論する余地がなくなってしまう。今から検討委員会を設置し、地域とともに議論を進めてほしい。 統合校には未来がかかっている。1 + 1 = 2 ではなく、3にも4にもなるような学校にしてほしい。幅広く地域と統合校に係る議論を行い、長きに渡って愛される学校になってほしい。	
9	統合校における「第三種電気主任技術者認定校」は維持できるのか。	現在もむつ工業高校では「第三種電気主任技術者認定校」の要件に必要な「26単位を越えた電気工学等に関する科目」を履修しているところです。この認定校については、統合校でも維持したいと考えております。

No.	ご意見	対応
10	第三種電気主任技術者認定校の要件の1つとして、電気工学等に関する科目を26単位以上開設しなければならない。必修科目や専門科目もある中、更に学科の枠を越えた科目履修は本当に可能なのか。	学科の枠を越えた科目履修は可能と考えており、工業科の生徒が進学のために理科や数学等を選択したり、総合学科の生徒が工業について学ぶための科目を設定したりすることが想定されます。なお、具体的な教育課程の編成等は、令和7年度の開設準備委員会での検討を経て、令和8年度に設置する開設準備室において検討することになります。 課題研究の授業においては、工業科の生徒が健康福祉系列と連携することで、ユニバーサルデザインについて学び、ものづくりに生かすことなどが想定されます。 また、授業以外の教育活動においては、総合学科と工業科という異なる2学科が併置されることで、様々な個性や価値観に触れたりすることができるようになり、互いに切磋琢磨できる環境が整備されるところと考えております。
11	大湊高校で今まで取れなかった放射線や危険物等に係る資格は取れるようになるのか。	資格の種類によっては、受験資格が年齢制限等のみであり、教育課程等による履修の制限によらず、生徒自身の学習で取得することが可能となっており、現在の大湊高校においても取得可能な資格もあります。そのため、統合校においても、資格の種類によっては取得可能となると考えております。
12	大湊高校で取得に取り組んでいる資格を知りたい。	なお、現在の大湊高校では、日本漢字能力検定、実用英語技術検定、実用数学技能検定、日本商工会議所主催簿記検定、全国商業高等学校協会ビジネス計算実務検定、商業経済検定、ビジネス文書実務検定、情報処理検定、ITパスポート、介護職員初任者研修、家庭科技術検定に対応しています。

No.	ご意見	対応
授業以外の放課後や長期休暇中の講習等を活用し、地元企業の講師に呼ぶ等して、資格取得ができる環境を整えてほしい。	むつ工業高校においては、現在、 ・学科の特性を生かし資格取得のための指導体制を構築し、講習を実施しています。 各学科では、次の技能士資格取得に向けた講習会を実施しています。 ○機械科 - 機械加工（普通旋盤作業・マシンングセンタ作業・数値制御旋盤作業）や機械検査（機械検査作業）、機械保全（機械系保全作業）、溶接技能講習 ○電気科 - 電気工事士、電気工事施工管理技士、第三種電気主任技術者 ○設備・エネルギー科 - 作業建築配管（建築配管作業）、管工事施工管理技士、電気工事士 ・設備・エネルギー科1・2学年の生徒が新エネルギーに関する知識・技術習得のための講習会や出前授業を受講してます。 大湊高校については、NO11・12参照。 以上のような取組を統合校においても実施し、様々な資格が取得できるような環境を整えていきたいと考えております。	13

No.	ご意見	対応
14	工業科と総合学科の統合の理念が実現できるように、生徒、保護者、教員の要望が叶えられるように、お金と人を惜しみなく投資してほしい。	開設準備委員会で検討する事項については、いただいたご意見を繋げていきたいと考えます。
15	両校の部活動や特色ある教育活動を統合校にもしっかりと引き継いでほしい。	開設準備委員会での検討事項以外のものでも統合に向けた準備が必要であると考えられます。
16	他地区と違い、下北地区には私立高校がなく、中学生は公立高校しか選択できない。主役は子どもたちである。そのことを念頭において、統合校開設を進めてほしい。	いずれも統合対象校間で共通理解を図ったり、準備を進めたりすることが必要と考えられます。
17	生徒が大学を卒業してむつに戻ってくる仕組みができた。この良いムードを壊さないように、統合校をしっかりと作ってほしい。	※開設準備委員会で検討する事項については、NO2～8 参照。
18	統合校はたくさん挑戦し、成功と失敗をたくさん経験できる高校にしてほしい。今の高校は限られたカリキュラムの中で教育活動を行っており、生徒の失敗経験が少なくないと感じている。地域との関わりを増やし、アウトプットの機会を増やしてほしい。	

No.	ご意見	対応
19	統合校は間口を広げ、地域との活動をたくさん行う高校にしてほしい。	いただいたご意見については、令和7年度の開設準備委員会で検討することとなりますので、準備委員会に繋げていきたいと考えております。
20	県立高校の授業において、地域や民間が授業に関わることはできないか。高校生のうちに色々なことを経験させたいと思うし、地域の色を出した教育もできないのではないかと思っている。	両校では、現状においても各校とも地域との連携を密にしながら魅力ある教育活動を展開しています。 現在、生徒一人一人の「ふるさとあおもり」への愛着や誇り、夢を抱き未来に向かって挑戦する意欲を醸成するために、地域資源や人財を活用して、高校の所在地及び自身の居住地域等について理解を深める学習である「あおもり創造学」に取り組んでいます。 令和5年度の「あおもり創造学」の大テーマは、 大湊高校は「下北HEROES～地域で働くヒーローを探せ～」、 むつ工業高校は「ジオパークって何だ!?～下北ジオパークからはじめる地域理解～」です。
21	地域のことを学ぶために、地域の歴史、地域の地理、地域の経済等といった、「地域」という文字をつけた授業を、統合校では増やしてほしい。	【これまでの地域と連携した教育の例】 大湊高校：むつ市包括支援センターによる出前講座や実習 むつ工業高校：JAMSTECとの共同研究
22	総合学科と工業科における決められた科目だけではなく、地域に必要な科目を一緒に考えて作ってほしい。	

2 情報交換、開設準備委員会に関すること

No.	ご意見	対応
23	このような情報交換を何度も重ねないと、お互いに信頼関係は得られないだろう。そのためにも、何度も場を設けることをお願いしたい。	下北地区統合校の開設に向けて、質問や具体的な御意見をいただくため、学校や地域の関係者等と個別に情報交換を行い、対話をしてきたところです。
24	今の小学校の保護者たちへ統合校に係る説明と意見聴取をしてほしい。	今後は、令和7年度に設置する開設準備委員会に対し、下北地域の意見を届けることを目的として設置された下北地区統合校検討委員会で、地域の御意見を伺うとともに、これらの御意見を開設準備委員会に繋げていきたいと考えております。
25	地域住民との情報交換や地域住民へ広く説明会を行う予定はあるか。	
26	情報交換会は県教育委員会の中でどういう位置づけなのか。どういう根拠で行っているのか。	
27	情報交換会で出た意見等を開設準備委員会に繋ぐと言っているが、繋ぐという担保はあるのか。	
28	学科・学級数が決まっているのなら、情報交換会で意見を出しても、取り入れられないのではないか。情報交換会は意味があるのか。	
29	開設準備委員会の委員構成について、個人までもう決まっているのか。県教育委員会にとって都合の良い委員だけにならないよう、各業界の代表者を入れる等、公平な委員構成にしてほしい。	第1期実施計画期間における統合事例では、開設準備委員会の委員構成として、統合の対象となる高校の校長や、後援会等の外郭団体代表、関係市町村教育委員会教育長等で構成したところです。
30	開設準備委員会の委員構成について、学校関係者だけではなく、地域も入れてほしい。その上で、地域の要望を広く吸い上げてほしい。	第2期実施計画の統合における開設準備委員会の委員構成については、県教育委員会において、産業界関係者などにも参加していただき、地域の意見を丁寧に向いながら、開設に向けた準備を進めるよう提案があったところであり、このことも踏まえながら、委員構成を検討して参りたいと考えております。

3 施設整備に関すること

No.	ご意見	対応
31	令和4年度から情報交換、令和7年度に開設準備委員会、令和8年度に開設準備室、令和9年度に統合校開校、という教育内容等を検討するスケジュールに対し、施設整備は令和4年度に改築基本計画、令和5年度から設計・工事開始となっている。具体的な教育内容が決まらないのに、施設整備を進めることはできないのではないか。	下北地区統合校の学科及び学級数は総合学科3学級（現在の大湊高校の4系列を基本）、工業科2学級（機械科、電気・エネルギー科）と決定しております。 校舎等の施設整備については、統合校の学科及び学級数を踏まえ整備する予定であり、現在の大湊高校の人文科学、自然科学、健康福祉、情報ビジネス及びむつ工業高校の機械、電気、エネルギーに関する教育活動を基本としつつ、両校から意見を伺いながら、計画的に行うこととしております。 なお、主に2学年からの実習に必要な機械・器具等の設備整備については、開設準備委員会による教育活動の検討等を踏まえ、対応することとしております。
32	基本計画を今年度行うこととなっているが、基本計画を作ってしまったって、令和7年度から開設準備委員会で具体的なことを決めていくと、学校の先生の意見は聞かないことになるのではないかと。	基本計画は主に建築基準法等の法的制限の確認、校舎等の配置計画やこれに基づく整備スケジュール等、技術的な内容について検討・整理するものであり、施設整備を所管する課と学校とで複数回打合せをしながら基本計画を策定してきたところです。
33	改築基本計画が完成した後、計画について説明した上で、意見交換をしてもらえるのか。 校舎の見えた目等、どういった校舎になるのか気になるところ。	令和5年6月29日に開催された第1回下北地区統合校検討委員会において、基本計画について説明したところです。

No.	ご意見	対応
34	同窓会が自由に使用できる部屋があったり、歴代校長の写真展览展示したり、記念物品等を保管・展示できる部屋は確保できるのか。	記念物品等を保管・展示する部屋については、これまでも整備してきておりますので、統合校においても予定しております。 なお、部屋の活用方法については、今後、学校と相談することとしております。
35	むつ工業高校においては、新校舎を今のグラウンドの位置に新築する場合、新校舎と生徒会館が離れることになり、利便性が心配である。生徒会館は5年前に建てたばかりであり、取り壊すのはもったいない。生徒会館を生かせるように検討してほしい。	むつ工業高校の生徒会館の取りこわしは考えておりません。 一方で、生徒の利便性が損なわれないよう、今後、学校と相談することとしております。
36	むつ工業高校の敷地は狭い。あそこで間に合うのか。市道が狭い。統合すると、スクールバスと生徒の送迎車で渋滞になるだろう。今でも混雑している状況である。校地をバイパス沿いに移すことを要望したい。	下北地区統合校の設置場所については、教育委員会会議を経て、生徒の通学利便性を考慮し、むつ工業高校の校地として第2期実施計画が策定されたものです。 なお、基本計画では、渋滞が緩和されるよう校舎等を配置し、生徒が敷地内において安全に乗降できるよう動線が計画されたところです。
37	大湊高校は野球部が強く、野球場の設備も整っているが、むつ工業高校の野球場は狭い。大湊高校の野球場を活用する手段等は考えているか。	基本計画では、むつ工業高校の敷地内に野球場を整備することとしています。 一方で、大湊高校の施設を活用することについては、教育上の効果等について、今後、学校と相談することとしております。

4 その他

No.	ご意見	対応
38	「大湊」の名前は校名に残してほしい。	校名は、令和7年度の開設準備委員会で検討する予定です。いただいたご意見については、開設準備委員会へ繋ぎます。
39	他の統合校はこのようなように同窓会間でやり取りしたりした等の事例を示してほしい。また、両校同窓会で協議等する時には、県教育委員会にも入っていただきたいと思う。	両校の後援会とも一般財団法人（H20年12月施行の法人改革により、両後援会は一般財団法人に移行済み）であり、両後援会とも行政庁（青森県）の監督下から外れていることから、解散や合併等について、関係する法律等に基づき、両後援会同士での検討を進めることになりました。
40	統合校の生徒が後援会の恩恵を令和9年度から受けられるよう、県教育委員会には新後援会の設置等に係る検討にご協力いただきたい。	なお、これまで、統合した学校における開設準備室の業務整理状況を両校に情報提供しており、両校ではそれを参考に進めることとしております。 両校間で話し合って進めていくものと考えていますが、相談等については可能な限り対応させていただきますので、いつでもお寄せください。
41	教育委員に、下北の地域のこと、大湊高校及びむつ工業高校がどういう教育をしているのか、ということを見に来てもらって理解してほしい。	令和3年7月に教育委員が両校を視察し、第2期実施計画を検討したものです。なお、その後教育委員となった委員も両校を視察しております。
42	大湊高校、むつ工業高校、高校改革室で徳島県の先進事例を視察したそうだが、私たちも統合校の先進事例を視察してみたい。そのような機会をつくってほしい。	先進事例については、両校が令和4年9月29日、30日に徳島県を視察し、令和4年10月27日の大湊高校・むつ工業高校の合同情報交換の際に紹介したところ です。 今後の先進事例視察については、高等学校教育改革推進室では、現段階で計画しておりません。